



隼人族の森を渡る風

上床 利秋

<https://douzou.jp/>

連載エッセイ 第113回

控えめなかつこよさもあるんじゃないか？

現代卓球はルールの改正やラケット、ラバーの進化もあって、攻撃的な選手が多くなってきた。そういう風潮の中にあつて、守備型で戦術がとてもし品の良い女子選手が実力を伸ばしてきている。橋本帆乃香選手だ。その姿はまるで蝶のように舞い、蜂のように刺すカットウーマンだ。

試合に勝った瞬間のガッツポーズでも左こぶしを静かに掲げてかっこいい。「謙虚」さがモットーというのも頷ける。これからさらに活躍してほしい。

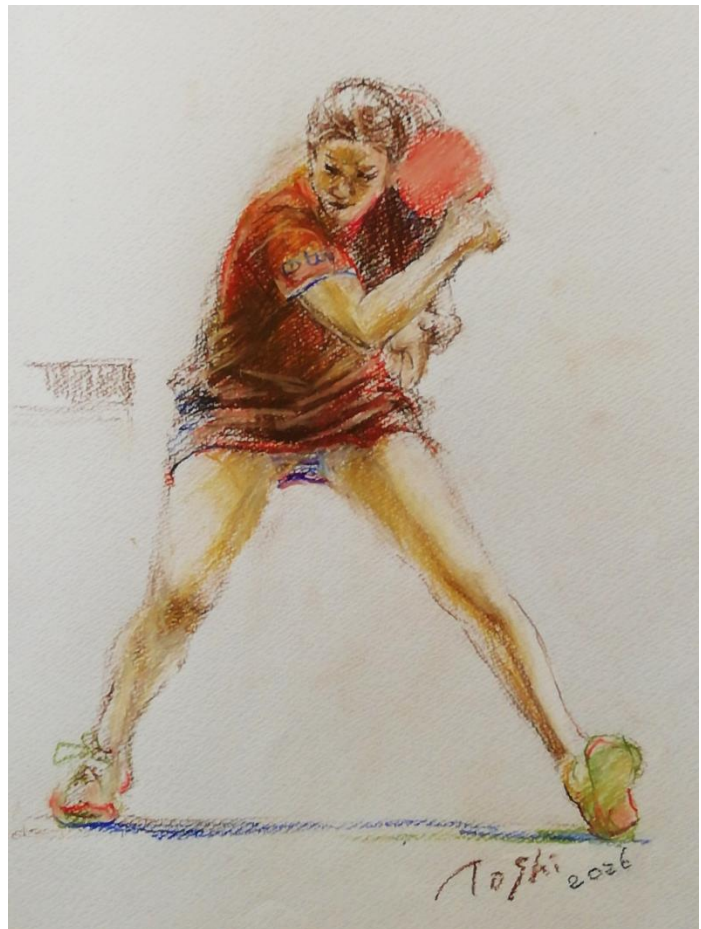
それにしても、海外選手の一部にはマナーとして品性を疑うパフォーマンスが横行している。洋の東西を問わず、試合に勝った喜びで卓球台に飛び乗って大騒ぎする選手の行為が男女ともに相次いだ。これが日本の剣道の試合ならば即刻反則として、相手選手の勝利とみなされるパターンだ。まあお国柄の違いだからと寛容な対応であるのも良いのかもしれない。

そういう行為を知って数週間が経った。ガッツポーズをすること自体は理解できるけれども、やはりマナーというものを正すべきだと思ふ わたかま 蟠りが自分の心に燻っている。

2026年5月



2026世界卓球ロンドン大会女子団体決勝で中国人選手に勝利した瞬間の橋本選手かねて性格的におとなしい選手が直立して拳を高く掲げた姿はどこか彫刻のポーズに似て美しかった。



バックハンドでカットする橋本選手のイメージ
筆者作 / コンテ